

【大学間協定留学】留学報告書

記入日	2024年1月9日
明治大学の所属学部・研究科 ※学部・学科・研究科・専攻等	国際日本学部国際日本学科
留学(渡航)した時の学年	2年生
帰国年月日	2023年12月29日
明治大学卒業予定年月	2026年3月
留学先大学について	
留学先国	アメリカ合衆国
留学先大学	ニューヨーク市立大学スタテンアイランド校(日本語名) College of Staten Island, City University of New York(現地言語名)
現地使用言語/ 授業使用言語	英語/英語
留学期間	2023年8月～2023年12月
留学先大学で在籍した学年	2年生
留学先の所属学部等	<input type="checkbox"/> 特定の学部・研究科等に所属している(以下に学部等名を記入) ※学部等名 日本語名: 現地言語での名称: <input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部等に所属せず様々な学部等の授業を履修している <input type="checkbox"/> その他:
形態	<input type="checkbox"/> 国立 <input checked="" type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他:
学年暦 ※記入例: 1 学期: 4 月上旬～7 月下旬 2 学期: 9 月中旬～2 月上旬	1 学期: 8 月下旬～12 月下旬 2 学期: 1 月下旬～6 月初旬 3 学期: ~ 4 学期: ~
学生数	約 13000
創立年	1976

留学費用			
留学費用項目	現地通貨 (米ドル)	日本円	備考
授業料		円	交換留学のため授業料免除
宿舍費	8000ドル	1200000 円	契約必須のミールプランと合わせて
食費	1400ドル	200000 円	
図書費	100ドル	15000 円	
学用品費		円	日本から持ち込み
携帯・インターネット費	100ドル	15000 円	月15～25ドルほど
現地交通費	140ドル	20000 円	外出用(<input checked="" type="checkbox"/> 大学まで徒歩・自転車)
教養娯楽費		円	特に大きい買い物はしていない
被服費	100ドル	10000 円	ほぼすべて日本で調達した
医療費		円	利用なし
保険費	300ドル	50000 円	形態:学校指定のもの
渡航旅費	2500ドル	400000 円	JAL 往復 直行
ビザ申請費	300ドル	50000 円	
雑費	700ドル	100000 円	
その他		円	
その他		円	
合計	13640ドル	2060000 円	

渡航関連

渡航経路

往路 出発地:羽田 目的地:ジョン・F・ケネディ空港 経由地:なし

復路 出発地:ジョン・F・ケネディ空港 目的地:羽田 経由地:なし

渡航費用

① 往復チケットを購入した場合
航空会社:JAL

料金:40万円ほど

② 片道ずつチケットを購入した場合
往路 航空会社: 料金:

復路 航空会社: 料金: ∴合計:

航空券購入方法

旅行代理店(店名:)

インターネット(サイト名:JAL)

その他()

滞在形態関連

1) 種類(留学中の滞在先)(例:アパート、大学の宿舎等)

学生寮(寮の名前:Dolphin Cove) アパート ホームステイ

2) 部屋の形態

個室 相部屋(同居人数)

3) 共有部分

バス トイレ キッチン(自炊可 自炊不可)

4) 住居を探した方法:

学校指定の寮

5) 感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

寮は大部分を黒人が占めており、日本人の生活スタイルからすると相いれない要素が多い。ルームメイトは直前にマッチングアプリのようなものであらかじめ決めることができる。そのアプリで生活時間帯などの特徴を入力でき、相性が良いと思われる人を選べばよい。私の友人は相部屋でトラブルがあったため、金銭的な余裕があるならなるべく個室をお勧めする。

食べ物に関しては、徒歩 20 分ほどの場所にストップ＆ショップというスーパーマーケットがあるため、そこを頻繁に利用するといいたいだろう。寮に住む場合、学生用カフェテリアのミールプランが必須だが、私はあまり好きではなかったため、最も安いプランをお勧めする。都市部ではデリバリーも充実しているため、余裕がないときは Uber Eats などを利用するといいたいだろう。また、日本食が恋しくなったら Weeee !! というアプリで米や魚、納豆まで幅広い日本の食料を安価に購入できるため、よく利用していた。

現地情報

1) 留学期間中、病気やケガをしましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。

(例: 現地の病院、学内の診療所)

なし

あり (治療を受けた場所: 友人がケガしたときは学校のセキュリティが近くの病院まで送迎してくれた。)

2) 留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。

(例: 留学先大学の相談窓口、現地の友人等)

なし

あり (問題の内容や相談した人等:)

3) 現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?

犯罪に巻き込まれたことはないが、パレスチナ問題の関係でマンハッタンはデモがそこらじゅうで発生しており、巻き込まれる寸前だった。街に出る場合は大使館の連絡を頻繁に確認するといいたろう。また、マンハッタンや NYC 北部のブロンクスは治安が良くないため、人通りが少ない場所は避けたほうが良い。街中では不適切な言動は避け、タクシーなどもすべて自分で手配するほうが良い。くれぐれも空港周辺のタクシー客引きについていけないこと。

4) 携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。

(例: 寮のインターネット接続が不安定で 1 週間に 1 度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

Wifi は寮も学校内でもつながっており、まれに不安定になれど、おおむね使い勝手は良かった。また、大学内では電波が入らない場所は多少あったが、特に問題はなかった。街中でも基本的にどこでもつながる。

5) 現地での資金調達はどのように行いましたか?

(例: 現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

日本の銀行口座に親に送金してもらった。買い物はすべてクレジットカードで行うため、何枚か用意したほうが良い。半年なので新しく口座は開設しなかった。交通機関もすべてクレジットカードで済ませられるので、タッチが可能なカードが必要だろう。

6) 現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えてください。

薬は日本のものを持っていったほうが良いだろう。好みの調料などは持ち込むとよいが、日本の食料などは少し値段は高くなってしまえど、都市部であれば基本的に何でも調達できる。

7) 【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。

(例: 渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。)

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入)	
1) 留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
13 単位	<input type="checkbox"/> 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:)
2) 履修登録の時期・方法及び履修制限	
<input type="checkbox"/> 出発前 <input checked="" type="checkbox"/> 出発後 <input checked="" type="checkbox"/> 派遣先大学の事務室 <input checked="" type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> その他() <input type="checkbox"/> 履修の制限があった:	
3) 以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Anthropology 201	人類学 201
科目設置学部・研究科	人文科学
履修期間	15 週
単位数	4
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1 週間に 120 分が 2 回
担当教授	Philippe Marius
授業内容	ジェンダーや政治、宗教などの社会問題を文化人類学の視点から読み解く。
試験・課題等	毎週の小テスト 25%、フィールドワーク 25%、中間エッセイ 25%、期末エッセイ 25%
感想を自由記入	この教授の声は少し聞き取りづらいが、とてもやさしく、個別に質問すれば時間をとって説明してくれる。毎週教科書 40 ページほどを読み解き小テストをする形式はとても骨が折れるが、エッセイのテーマも自由で成績評価もやさしかった。とてもお勧めする。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
World Music 105	世界音楽 105
科目設置学部・研究科	音楽、文化学
履修期間	15 週
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義 (チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1 週間に 150 分が1回
担当教授	Joseph Kaminski
授業内容	世界中の伝統民族音楽の成り立ちと、時代の進行によるグローバル化の影響について。
試験・課題等	2 Reaction Papers 20% (10% each) 1 Research Report 20% Weekly writings 20% Midterm Paper 20% Final Paper 20%
感想を自由記入	この授業は世界中の民族音楽に触れるため、とても面白かった。また、それらの音楽が植民地化や IT などによるグローバル化によってどのような融合変化を生み出したのかなどを考える。成績の評価方法も優しく、提出期限も厳格でないため、かなり自由である。強くお勧めする。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Philosophy 101	哲学 101
科目設置学部・研究科	哲学
履修期間	15 週
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義 (チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1 週間に 50 分、100 分が1回
担当教授	Rachel Elliott
授業内容	歴史的に著名な哲学者の論文について議論し、同時に現代の哲学とどのように関係があるのか、どのように違うのかを考察する。
試験・課題等	2つのエッセイ(20%)、プレゼンテーション(20%)、期末試験(25%)、授業態度(15%)
感想を自由記入	授業の資料の量が週数十ページと、とてつもなく多かった。それに加え授業内容も現地の学生にとっても苦勞するほど難しいため、毎回予習復習が欠かせなかった。エッセイの成績基準は厳しめだが、教授は優しいため質問なども気軽にできた。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
international studies 100	国際関係学100
科目設置学部・研究科	国際学
履修期間	15 週
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義 (チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1 週間に 160 分が 1 回
担当教授	Stephen Ferst
授業内容	現代の国際問題を毎週ひとつ取り扱い、学生全員がディスカッションを行いながら理解を深めるもの。
試験・課題等	3つのエッセイ(各25%)、期末試験(25%)、授業態度(25%)
感想を自由記入	この授業は最も難しさを感じた。授業の理解というよりも、学生たちが白熱したディスカッションを繰り広げるので、それについていくことがやっとだった。特に、パレスチナとユダヤ人の問題が最も議論を呼ぶものであり、授業終了を延長することもあった。難しかったが、その分アメリカの視点から国際問題を理解することがつながり、一番ためになった。

卒業後の進路について

1) 進路 ※3年生以下の方は今後の予定を記載してください。(下記2以降は記入不要)

就職 進学 未定 その他:

1) 進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関等

特になし

3) 就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません。就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。

4) 就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。
(例: 留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。)
就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。

就活のピーク時を避ければ、留学は基本就活に与える悪影響よりも、良い経験としてのメリットのほうが大きいと考える。私は2年次の留学だったが、周りの日本人が就活をする姿を身近で見ることができたり、ポスキャリに参加してグローバル人材の需要などについて知ったりすることができた。留学を通して、自分が得意なこと、今までやってきたことを考え直すことができた。

5) 進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。

6) 進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。

7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

私にとって、留学は今までと全く異なる環境に置かれるため、自分を見つめなおす機会になったと思う。また、自分と全く異なる経歴をたどってきた日本人とかかわることができれば、視野が広がることも間違いないだろう。

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。
 (例: 語学試験の勉強、選考、出願、ビザ申請・取得、航空券購入、予防接種、滞在先の確保、留学中の中間試験、
 期末試験、その他イベント等)

留学開始年の 前年	1月～3月	
	4月～7月	情報収集、説明会の参加
	8月～9月	学内申請
	10月～12月	書類提出、面接、合格発表
留学開始年	1月～3月	情報収集、ビザの用意
	4月～7月	入学許可書の発行、寮の手配、航空券購入
	8月～9月	出発、授業登録、中間試験
	10月～12月	ボスキャリ、期末試験、プログラム終了、帰国
留学/帰国年	1月～3月	単位認定
	4月～7月	
	8月～9月	
	10月～12月	

留学体験記

※ この留学先を選んだ理由、留学生生活全般について、また、これから留学を志す後輩学生へのアドバイス等、自由に記入してください。

第一から第三希望は西海岸が中心だであり、ニューヨークは世界的にも有名であるが、物価がかなり高いため、私はこの学校は第四希望であった。学校全体としての規模は大きくなく、現地の学生にとっては転校しより高いレベルの大学への通過点として通学する人もいるらしい。そのため、あまり課外活動は活発ではないという点もある。私は何かのクラブをに入ろうと思っていたが、思ったように活動することはできなかった。その点は残念だったが、その代わりに新しくジャズに興味を持つことができた。ジャズの授業に体験で参加し、そこで数人の友達を作ることができた。このように、今まで興味なかった全く新しいことを始めるチャンスになりえるため、今後留学を志している学生には、いろいろなことに挑戦してほしい。

私は今回の留学がとても満足できるものであった半面、もっとやっておくべきだったと思うものがいくつもある。一学期、一年間という短い期間の中で悔いを残さないためにも、挑戦を続けてほしい。

私は大学生のうちにもう一度海外へ行き、経験を積みたいと強く願う。過ごしてみれば本当に一瞬で、自分がすべきことをやらないと人生はそこまで長くない、とも思うようになった。さらに、自分に強く影響を与えたと思われる要因は周りの日本人だった。あまり日本人とかかわるべきではないと思ってはいたが、異なる経歴を持つ日本人と接する機会は日本にはあまりないため、視野が広がったという自覚がある。留学先では、日本人、外国人問わず、いろんな人々と接するとよいだろう。